

横查情報月報



2022
5055

5月
2日

横浜市衛生研究所

令和4年5月号 目次

【検査結果】

医動物・食品中異物検査結果（令和3年度）	1
食品の苦情品等検査（令和3年度） －食品添加物担当で行った理化学検査－	2
食品中の放射性物質検査結果（令和3年度）	6

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報（令和4年4月）	7
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和4年4月）	9
----------------------------	---

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

医動物・食品中異物検査結果（令和3年度）

医動物担当では、人の健康を害する、または不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受けて、昆虫類を中心に食品へ混入した異物の検査を行っています。令和3年度の食品中異物検査実績は1件でした。内訳は昆虫類1件(チョウ目)でした。

検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
コーヒーを保管している缶に幼虫が付着していた。 (1月)		チョウ目(ガ)の幼虫	ガ類の幼虫は農作物、果実、樹木などの害虫で、極めて多食性のものが多い。
	幼虫、灰白色、約6mm		

いつ開封したかしら？ ミックス粉は、保管に**注意**しよう！

知っていますか？ パンケーキ症候群

使いかけの**お好み焼き粉**や**たこ焼き粉**、**パンケーキミックス**などを常温で保管すると、ヒョウヒダニ類等が侵入、繁殖し、その粉で調理した料理を食べてダニによるアレルギー反応を起こすことがあります。ヒョウヒダニ類は小麦粉だけでは増殖しにくいですが、お好み焼き粉等に含まれるタンパク質や脂質等がダニの増殖を活性化すると考えられています。

開封したお好み焼き粉やたこ焼き粉、パンケーキミックスは使い切るか、または密封して冷蔵庫で保管しましょう。

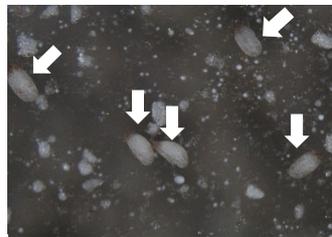


写真1 お好み焼き粉中のダニ



写真2 コナヒョウヒダニ

過去の事例：検査情報月報2021年5月号 医動物・食品中異物検査結果（令和2年度）

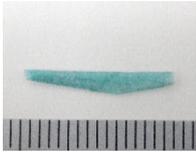
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/eiken/geppo/2021/2105.files/210501.pdf>

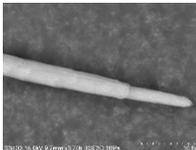
【 微生物検査研究課 医動物担当 】

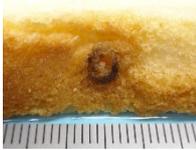
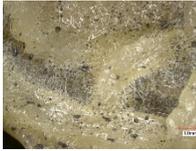
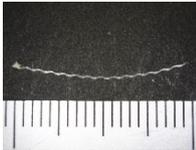
食品の苦情品等検査（令和3年度）

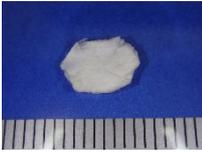
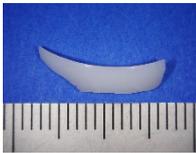
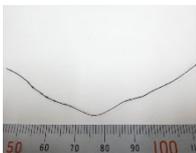
－食品添加物担当で行った理化学検査－

令和3年度、福祉保健センター等に届けられた食品に関する苦情品等で、原因究明のために検査依頼があったのは、16件28検体でした。相談の内容は様々ですが、異物混入が多数を占めました。主な検査結果は次のとおりです。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
ピザ中の糸状異物 	ピザを喫食中に側面に極細の毛様異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 結果	長さ約2cmと1.5cm、白色半透明の極細い糸状異物2本。 表面は平滑で、幅は約0.05mmであった。先端付近に黄褐色の付着物が観察された。 表面には微細な凹凸があり、裂けた箇所には繊維状構造が観察された。 炭素及び酸素の元素を認めた。 セルロースと類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 セルロースを主成分とする有機物であると推定された。
サバの味噌煮中の異物 	サバの味噌煮の上に青色薄片の異物が付着しているのを発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 結果	大きさ約15×4mm、厚さ約0.05mm、重さ約2mg、緑みを帯びた青色の薄い異物。長辺の縁が丸まっていた。内側の面は光沢があり、反対面は毛羽立っていた。 内側の面は滑らかで、反対面には繊維状物質が観察された。断面から繊維状物質が出ていた。 内側の面は平滑で不規則なスジ状の模様があり、反対面には不規則に重なる繊維状の構造が観察された。 炭素及び酸素の元素を認めた。 内側はポリプロピレン、反対面はセルロースに類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 片面がポリプロピレン樹脂でコーティングされた紙と推定された。
カツオのごま味噌あえ中の異物 	カツオを喫食中に硬質異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 結果	大きさ約5.9×3.5mm、高さ約3mm、重さ0.1g、三角柱のような形状をした黒色の硬質異物。 表面は黒色で光沢があり、円形の窪みや亀裂が複数観察された。 表面を拡大すると多数の微粒子が観察された。 表面はチタンが多く、次いでケイ素、クロム、カルシウム、マンガン、フッ素等の元素を認めた。 チタンを多く含む鉱石と推定された。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
給食中の異物 	給食を喫食中に黒色針金様の異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 リグニン反応 結果	長さ約3cm、太さ0.7mm、重さ7mg、細長い黒褐色の針金様異物。波打った形状をしており、4か所で湾曲していた。 表面は黒褐色で樹皮のような形態であり、表面を削った中心部は淡黄色の木目模様であった。 表面はひびのような多数のスジが同一方向に走っており、断面には植物に特徴的な維管束が観察された。 炭素及び酸素の元素を認めた。 セルロースと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性(木質素の確認) 植物片(木片)と推定された。
菓子パン中の異物 	パンを喫食中に袋の内側に毛が付着しているのを発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 結果	長さ約3cmの黒色毛様異物。 先端は細いが、太さは概ね60 μ m程度であった。また、先端付近の一部と、末端にかけては白色であった。 先端は尖っており、表面には小皮紋理(キューティクル)が観察された。小皮紋理は部位によって異なっていた。また、裂け目、断面から、髄質は太いと考えられた。 炭素、酸素、窒素及び硫黄の元素を認めた。 動物の毛と推定された。
シリアル中の異物 	乾燥果実入りのシリアルを喫食中に硬い異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 結果	大きさ約7.6 \times 7.6 \times 2mm、重さ約0.06g、黄褐色～褐色のやや弾力のある異物。剃刀の刃で切片を切り出すことができる固さであった。 洗浄後の表面は白色～微黄色半透明で乾燥してざらつき、辺縁に層状の構造が観察された。 薄片状の構造が折り重なり、所々に空隙が観察された。 炭素及び酸素の元素を認めた。 糖類と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。また、残品中の乾燥果実(リンゴ、パパイヤ)とも赤外吸収スペクトルが類似していた。 果実の一部と推定された。
冷凍マンゴー中の異物 	通販で購入した冷凍マンゴーを自宅で喫食中にプラスチック状の異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 赤外分光分析 結果	大きさ約12 \times 3mm、重さ約10mg、白色半透明の薄い不定形のプラスチック様異物。水に入れると浮いた。 全体に細かなスジがあり、両端の破断面の一方は薄い膜様、反対側は層状の構造であった。 ポリエチレン樹脂と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 ポリエチレン製の樹脂と推定された。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
食パン表面の 黒色異物 	購入した食パンの外皮に黒い異物が付着しているのを発見した。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 結果	直径3～6mmの円形の黒色異物。食パンの表面に付着しており、異物だけを取り出すことはできなかった。異物はざらついた感触であり、わずかな力でポロポロと崩れた。 円の周辺部だけが黒く、中央部には食パンの外皮が観察された。 全体的にデンプン粒を認めた。食パンの外皮と類似していた。カビに特徴的な菌糸状の構造物は観察されなかった。 炭素、酸素、窒素、鉄等の元素を認めた。 食パンと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 食パンのコゲと推定された。
チリコンカン (挽肉と豆の煮込み料理) 中の異物 	チリコンカンを喫食中に軟骨片のような異物を発見した。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 リグニン反応 結果	大きさ約14×4×1mm、重さ56mg、黄色の薄片状異物。 全体的に黄色の繊維質であるが、白色の箇所も観察された。また、両端は切断された形状をしていた。 表面は細かな多数のスジが同一方向に走っており、断面には植物に特徴的な維管束が観察された。 炭素及び酸素の元素を認めた。 セルロースと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性(木質素の確認) 植物片と推定された。
弁当中の異物 	弁当のおかずにかび様異物を発見した。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 結果	表面に黒色の斑点と白色の糸状異物が多数観察された。 白色と黒色の球状物と白色の繊維状物が密集している様子が観察された。 菌糸様及び胞子様構造を認めた。 カビと推定された。
炊き込みご飯の具中の異物 	炊き込みご飯の具から異物を発見した。	外観 顕微鏡 赤外分光分析 結果	長さ約2cm、幅0.3mm、重さ1mg、細長い半透明の合成樹脂様異物。比較的硬く、水に入れると沈んだ。 全体的に長さ0.8mmの等間隔で曲がりくねった形状をしていた。片方の端は繊維が細かくほつれたような状態であり、もう片方は切断されたような断面であった。 ポリエステルに類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 ポリエステルを主成分とする合成樹脂と推定された。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
麦ごはん中の異物 	麦ごはんを喫食中に口内から異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 蛍光物質 結果	大きさ8×6mm、厚さ0.3mm、重さ9mgの白色紙様異物。 表面は凹凸がありざらついた状態で、周囲は繊維が解けて毛羽立っていた。 細長い繊維が密集した構造が観察された。 炭素及び酸素等の元素を認めた。 両面とも紙(セルロース)と同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 紫外線を上から照射したところ、蛍光を認めた。 蛍光物質を含む紙と推定された。
マカロニクリーム煮の中の異物 	マカロニのクリーム煮を喫食中に異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 結果	大きさ3～5mm、重さ約3mgの白色三角形状異物。 表面には凹凸があり、縁は鋭くなっている箇所や層状に剥がれた箇所が見られた。 表面には多孔質の形状が観察された。 炭素、酸素、窒素、カルシウムおよびリン等の元素を認めた。 軟骨と類似した赤外吸収スペクトルを認めた。 軟骨の欠片と推定された。
サラダ中のプラスチック様異物 	購入したスモークチキンとチーズのサラダを喫食中に異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 赤外分光分析 結果	大きさ約14×4mm、厚さ約0.7mm、重さ23mg、白色のプラスチック様異物。全体的に湾曲しており、両端は割れたような形状であった。両面とも滑らかであり、水に入れると浮いた。 片面は横方向、もう片面は縦方向に多数の細かいスジが走っていた。 ポリプロピレンと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 ポリプロピレン樹脂の破片と推定された。
ひじきごはんの具中の異物 	ひじきごはんの具から糸状異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 赤外分光分析 結果	長さ8.7cm、太さ0.27mm、重さ4mgの黒色繊維状異物。 表面は滑らかで所々凹んで膨らんだ形状が観察された。また、左先端は切断されており、右先端は丸みを帯びた形状をしていた。 ポリプロピレンと同様の赤外吸収スペクトルを認めた。 ポリプロピレン樹脂の繊維と推定された。

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

食品中の放射性物質検査結果（令和3年度）

平成23年3月に東日本大震災による福島第一原子力発電所事故がおき、市民の健康影響への不安に応え市内流通食品の安全・安心を確保するため、同年7月から食品中の放射性物質検査を行っています。

令和3年度に当所で行った食品の検査結果は表1～表3のとおりです。439検体中3検体（米（玄米）、しいたけ（生）及びたけのこ各1検体）から放射性セシウム（Cs）が検出されましたが、基準値*を超えたものではありませんでした。

- * 放射性 Cs の基準値（Cs-134 と Cs-137 の合計）
乳児用食品：50Bq/kg、牛乳：50Bq/kg、一般食品：100Bq/kg
（厚生労働省告示第129号、130号 平成24年3月15日）

表1 検体の種類及び数並びに放射性Cs検出検体数

検体の種類	説明	検査検体数	放射性Cs検出検体数
市内産農産物	横浜市内産の農産物	15	3
市内産水産物	横浜市内漁港水揚げの魚介類	60	0
市内産畜産物	横浜市内産の原乳	4	0
市内量販店流通食品	横浜市内で流通している食品	12	0
小学校給食	米、麦及び牛乳	348	0
合計		439	3

表2 検体の内訳

検体の種類	品名（〔 〕内は検体数）
市内産農産物	えだまめ〔1〕、かき〔1〕、かぶ〔1〕、キャベツ〔1〕、きゅうり〔1〕、こまつな〔1〕、しいたけ（生）〔1〕、たけのこ〔1〕、トマト〔1〕、日本なし〔1〕、なす〔1〕、にんじん〔1〕、ばれいしょ〔1〕、ぶどう〔1〕、米（玄米）〔1〕
市内産水産物	アカカマス〔1〕、カナガシラ〔5〕、カマス〔3〕、キチヌ（キビレ）〔1〕、クロダイ〔4〕、コショウダイ〔1〕、シログチ〔13〕、スズキ〔10〕、タチウオ〔11〕、チダイ〔1〕、ヒラメ〔2〕、ホウボウ〔1〕、マアジ〔2〕、マコガレイ〔1〕、ムシガレイ〔2〕、メイタガレイ〔2〕
市内産畜産物	原乳〔4〕
市内量販店流通食品	牛肉〔4〕、牛乳〔1〕、そば粉〔1〕、豆腐〔1〕、乳児用食品〔3〕、干しいも〔1〕、ミルク（液体）〔1〕
小学校給食	牛乳〔172〕、米（精米）〔95〕、米（胚芽米）〔33〕、麦〔48〕

表3 放射性Cs検出検体の検査結果

品名	検体数 （Cs検出数）	検出値（Bq/kg）		
		Cs-134	Cs-137	Cs合計
米（玄米）	1（1）	不検出（<0.748）	1.62	1.6
しいたけ（生）	1（1）	不検出（<0.757）	1.85	1.9
たけのこ	1（1）	不検出（<0.686）	2.53	2.5

不検出の（ ）内数値は、検出限界値

平成23年度～令和2年度の市内産農水産物の放射性物質検出状況について、横浜市衛生研究所年報 第60号（令和2年度）に掲載しています。下記 URL をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryō/eiken/gaiyo/annualreport.files/annualreport60.pdf>

【 理化学検査研究課 環境化学担当 】

衛生研究所WEBページ情報（令和4年4月）

横浜市衛生研究所ホームページ（衛生研究所WEBページ）は平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。

今回は、当WEBページにおける令和4年4月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数は市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。また、令和2年2月の集計より、新Webアクセス解析システム「Matomo」による集計となります。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和4年4月の総アクセス数は、181,143件でした。前月に比べ12.7%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*79.1%、保健情報11.1%、検査情報月報2.8%、食品衛生2.2%、薬事2.0%、生活環境衛生1.3%でした。

* 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

4月のアクセス順位（表1）を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「ぎょう虫（蟯虫）症について」、2位は、「トキソプラズマ症について」、3位は、「EBウイルスと伝染性単核症について」でした。10位には、「フルーツジュース（果汁）と下痢について」が入っています。

表1 令和4年4月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	ぎょう虫（蟯虫）症について	10,297
2	トキソプラズマ症について	9,427
3	EBウイルスと伝染性単核症について	6,754
4	B群レンサ球菌（GBS）感染症について	6,163
5	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	4,983
6	サイトメガロウイルス感染症について	4,883
7	水痘（水疱瘡）・带状疱疹について	4,722
8	粉ミルク（乳児用調整粉乳）を70℃以上のお湯で溶かすワケを知っていますか？	4,589
9	死亡率・致死率（致命率）・死亡割合について	3,413
10	フルーツジュース（果汁）と下痢について	2,919

「ぎょう虫（蟯虫）症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ka/gyou1.html>

「トキソプラズマ症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ta/toxoplasma1.html>

「EBウイルスと伝染性単核症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/alphabet/ebv1.html>

2 追加・更新記事

令和4年4月に追加・更新した主な記事は、1件でした(表2)。

表2 令和4年4月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
4月 5日	感染症に気をつけよう(4月号)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告（令和4年4月）

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第6週の報告数21,068件をピークに減少傾向にあります。小児を含めた幅広い年齢層での感染がみられます。
- 梅毒の報告は14件で、高い水準で続いています。

◇ 全数把握の対象

＜4月期に報告された全数把握疾患＞

腸管出血性大腸菌感染症	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
E型肝炎	3件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
A型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4件	梅毒	14件
急性脳炎	1件	百日咳	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件		

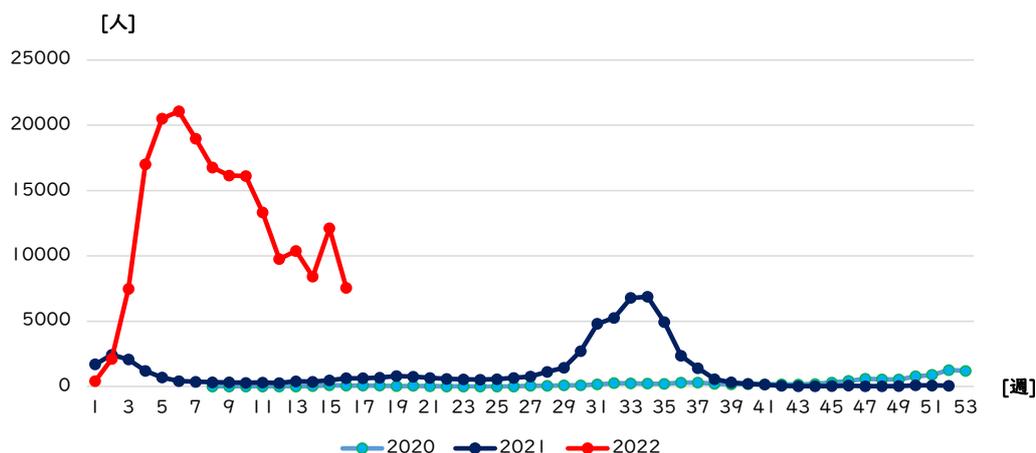
- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が2件、O26およびO不明の無症状病原体保有者の報告が1件ずつありました。1件は国内での経口感染と推定され、3件は感染経路等不明でした。
- 2 E型肝炎: 国内での経口感染と推定される報告が3件(うち1件は無症状病原体保有者)ありました。
- 3 A型肝炎: 国内での経口感染と推定される報告が1件ありました。
- 4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 4件の報告があり、いずれも感染経路等不明でした。
- 5 急性脳症: 幼児の報告が1件ありました。病原体は不明です。
- 6 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: B群とG群の報告が1件ずつあり、いずれも感染経路等不明でした。
- 7 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDS1件、無症状病原体保有者1件の報告がありました。いずれも男性で、同性間性的接触による感染と推定されています。
- 8 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 70歳代(ワクチン接種歴不明)の報告が1件ありました。
- 9 侵襲性肺炎球菌感染症: 10歳未満1件(ワクチン4回接種)、60歳代1件(ワクチン接種歴不明)、70歳代1件(ワクチン1回接種)の報告がありました。
- 10 梅毒: 早期顕症梅毒Ⅰ期9件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件、無症状病原体保有者3件の報告がありました。性的接触による感染が13件(異性間10件、同性間2件、詳細不明1件)、感染経路等不明が1件でした。
- 11 百日咳: 40歳代(ワクチン接種歴不明)の報告が1件ありました。感染経路等不明です。

◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

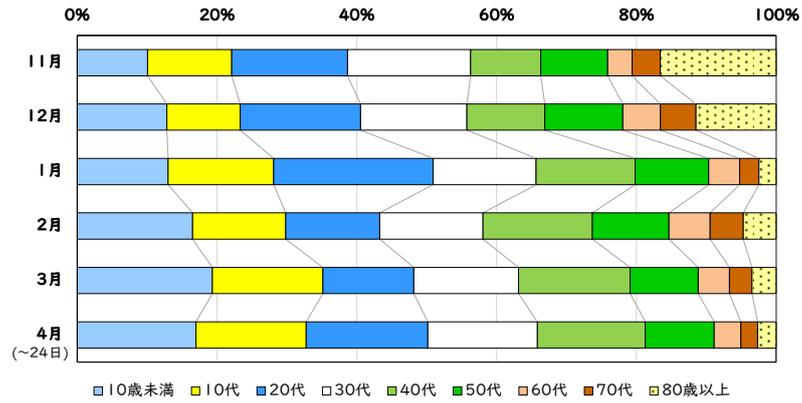
第12週～第16週に横浜市から報道発表がありました症例は48,246件でした。

◆ 横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>

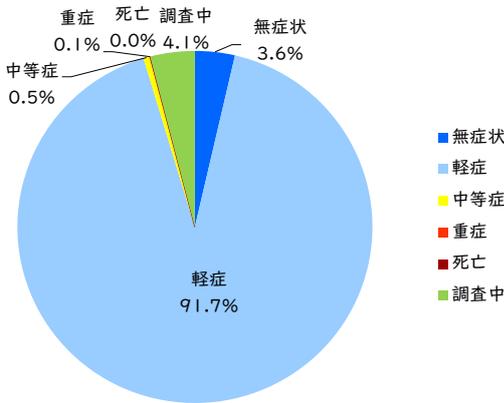
1 報告数の推移



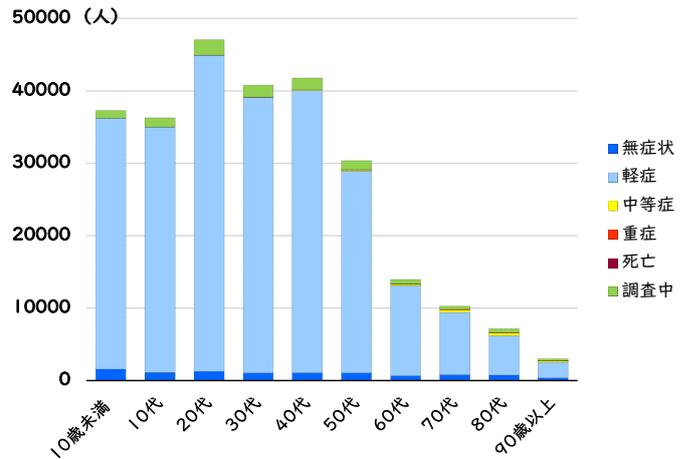
2 年齢層別患者割合



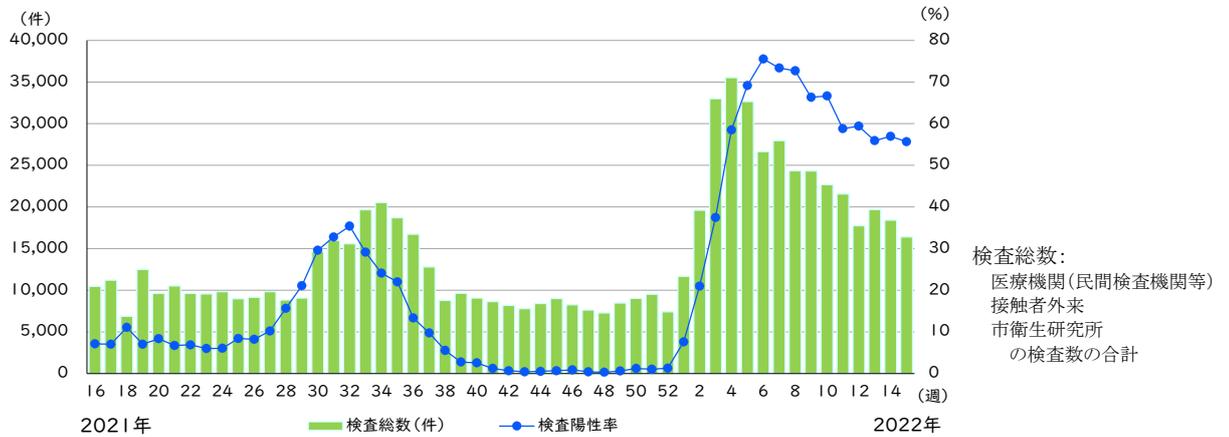
3 陽性確定時の症状の割合(2022年第16週まで)



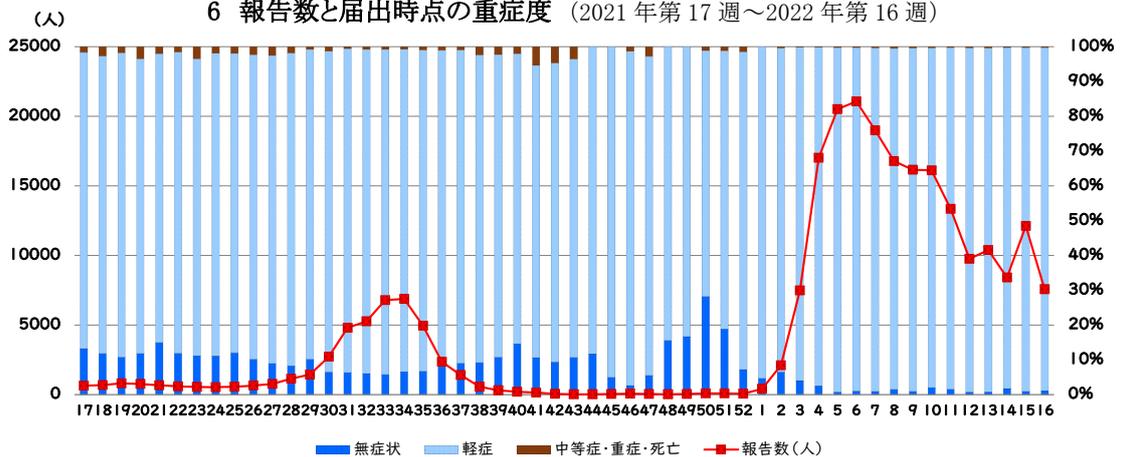
4 陽性確定時の症状別人数(年代別) (2022年第16週まで)



5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況 (2021年第16週～2022年第15週)



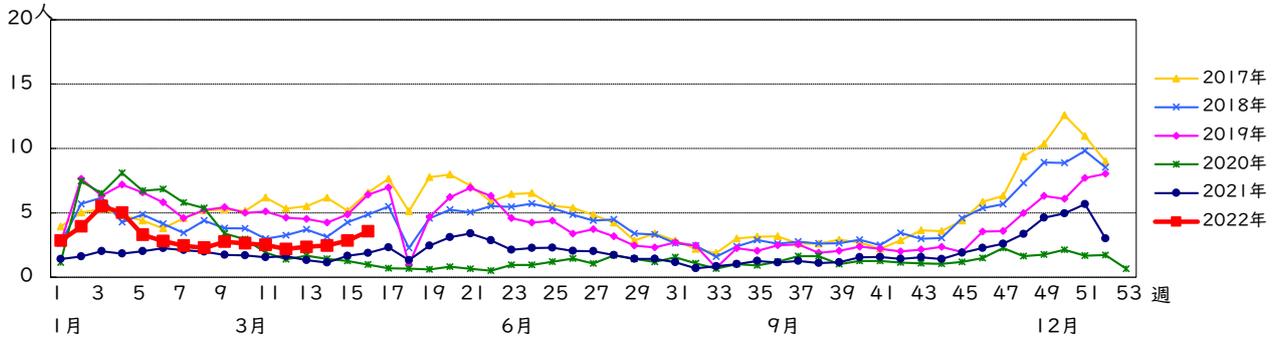
6 報告数と届出時点の重症度 (2021年第17週～2022年第16週)



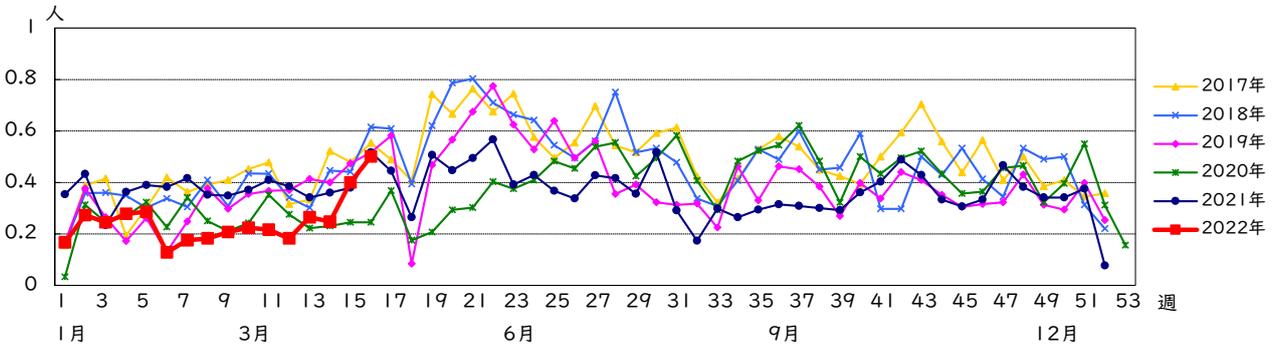
報告週対応表	
第12週	3月21日～3月27日
第13週	3月28日～4月 3日
第14週	4月 4日～4月10日
第15週	4月11日～4月17日
第16週	4月18日～4月24日

◇ 定点把握の対象

1 感染性胃腸炎：昨年より高めで推移しています。第3週の5.52をピークに、第12週で2.19と減少していましたが、第15週は2.84、第16週は3.56と増加しています。



2 突発性発しん：昨年より低めで推移していましたが、第14週は0.25、第15週は0.4、第16週は0.5と急増しています。



3 性感染症(3月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性: 6件	女性: 8件
尖圭コンジローマ	男性: 4件	女性: 1件	淋菌感染症	男性:16件	女性: 2件

4 基幹定点週報

	第12週	第13週	第14週	第15週	第16週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(3月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

4月期(2022年第12週～第16週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点33件、内科定点1件、眼科定点2件、基幹定点2件、定点外医療機関からは2件でした。

5月6日現在、表に示したアデノウイルス2型、アデノウイルス41型の分離株と、アデノウイルス2型、ライノウイルス、サポウイルスの遺伝子が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2022年第12週～第16週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	そ の 他
アデノウイルス 2型	1 1		
アデノウイルス 41型		1 -	
ライノウイルス	- 1		
サポウイルス			- 1
合 計	1 2	1 -	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

4月期(2022年第12週～第16週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件でした。非定点からの依頼はありませんでした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌2件、侵襲性肺炎球菌1件、侵襲性インフルエンザ菌1件、劇症型溶血性レンサ球菌1件でした。

「分離同定」の検査依頼は、ありませんでした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は、小児科定点から咽頭炎が1件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査 (2022年第12週～第16週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等
医療機関	基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)
		腸管出血性大腸菌	2	OUT : H7 VT1 (1)、O26 : H11 VT1 (1)
保健所		侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 10A (1)
		侵襲性インフルエンザ菌	1	<i>Haemophilus influenzae</i> UT (1)
		劇症型溶血性レンサ球菌	1	G群溶血性レンサ球菌 (1)
小児サーベイランス		項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	咽頭炎	1	<i>Staphylococcus aureus</i> TSST-1 (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】